

学術分野での女性活躍のために求められることは何か？

申請者 安部由起子（北海道大学）

### 趣旨

日本では、社会科学系や理系学部の女子学生比率、大学教員の女性比率は国際的に比較して低いとされ、最近では女性教員や女性の学生を増やすことについての積極的な取り組みが推進されている。

1986年に男女雇用機会均等法が施行されて以降40年あまり、育児介護休業法・女性活躍推進などの施策もあり、経済や学術の分野でも女性が活躍するようになってきた。

すでに女性が十分に活躍できているのであれば、これ以上特段の取組は無くてもよいということにもなるかもしれない。ただ日本においては女性教員比率や学生の中での女性比率が低いと認識されていることを考えれば、おそらく「これ以上の取組は必要なし」という段階ではないと思われる。

このパネル討論では、過去に大学における男女共同参画に取り組んできた方々、および、ジェンダー経済格差・男女共同参画の研究者にパネリストとして登壇していただき、「学術分野での女性活躍のために求められていることは何か？」を明らかにすることを目的とする。具体的な議論としては、以下の点についての議論を予定している。

【1】女性が大学で指導的地位に就くことに関連して、大学で、「研究・教育・管理運営」について、たとえば管理運営が（一部の）女性に偏っていることは問題か？

【2】「弱者が弱者として尊重される」が大学でもっと意識され、具体的施策として反映されるべきか？あるいは、「弱者が弱者として尊重される」とは無関係に、女性比率向上のための具体的な施策が必要と考えるか？

「弱者が弱者として尊重される」とは、上野千鶴子氏の平成31年度東京大学入学式祝辞で「フェミニズムは弱者が弱者のままで尊重されることを求める思想です。」と述べた内容である ([https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b\\_message31\\_03.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b_message31_03.html))。

以上